

	中間経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標 (☆は取組指標, ★は成果指標)		最終 (3月)		結果と課題の分析				
				指標評価	評価	指標評価	評価					
確かな学力 (知)	「主体的な学び」促す授業の質を高めることにより、これからの社会で活躍することができる生徒を育成する。	学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い課題100%提出への組織的な取組 基礎・基本の確実な定着のための帯学習 各種検定の受検率と合格率を高める取組 	☆宿題完全提出の取組について、達成率100%にする。	b	B	B	<p>○宿題提出率は1学年88.2%、2学年94.9%、3学年87.9%であり、全体的には提出しているが未提出者が固定している。課題として、未提出生徒が固定化している。⇒放課後の補充体制を継続、組織的に指導していくとともに、保護者連携をして学習習慣を身に付けさせていく。</p> <p>○英語検定67.2%、数学検定30.9%の受検率である。3学年の3級以上保持者は英語検定50.0%、数学検定33.3%である。受検料補助対象の英語検定は全員受検に至っていないが、3学期実施の第3回への受検者数は大幅に伸びた。⇒各種検定にチャレンジすることの意義を再確認させ、三者懇談会等の機会に保護者にも啓発していったことが受検者の増大につながった。</p> <p>○全国学力学習状況調査 (第3学年5月実施)の結果は国語77%、数学78%であった (全国平均:国語64.6、数学67.2)。三次市学力到達度検査 (第1・2学年1月実施)の結果は、すべての教科で全国平均を上回った。第1学年は5教科平均65.5 (全国平均57.8)、第2学年は5教科平均76.9 (全国平均56.4)。⇒課題に即した授業改善を進める。</p>				
				★全学年受検率を英語検定で60%以上、数学検定30%以上とし、卒業時の3級保持者の割合を英語検定60%以上、数学検定30%以上にする。								
				★全国学力・学習状況調査において、国語、数学で全国平均以上にする。	a							
				★三次市学力到達度検査において全学年の各教科平均値を全国平均以上にする。								
豊かな心 (徳)	集団の力を高め、豊かな感性と行動力のある生徒を育成する。	活用力の向上 生徒が主体的に学ぶ授業	<ul style="list-style-type: none"> 「課題発見・解決学習」の質を高める授業の研究 英語科の5ラウンドシステムの実践的研究 ICTの有効活用 組織的・計画的な授業研究 授業交流を学期1回行い、互いの授業を参観 	☆課題発見・解決学習を進める授業研究をする。	b	B	B	<p>○各教科とも課題発見・解決学習を進める単元開発に継続して取り組みを進めることができた。また、「本質的な問い」による深い思考を促す授業づくりを進めるために、校内授業研修や授業交流週間を行い、授業力の向上に努めた。</p> <p>○「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」80.8%</p> <p>⇒中間評価より-2.9% コロナ禍で職場体験学習や平和学習などが中止になる中で、探究的な活動を工夫して仕組み、学習意欲を高めていく必要がある。</p> <p>○「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表をくふうしています。」80.8%</p> <p>⇒+1.2% 来年度からの入試を想定し、自己表現の場を増やしていく必要がある。</p> <p>○「学習の振り返りをするときには、『どこまで分かったか』『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています。」90.4%</p> <p>⇒+2.6%</p>				
				☆授業交流週間で互いの授業を参観する。	b							
				★「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」90%以上	b							
				★「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表をくふうしています。」90%以上	b							
				★「学習の振り返りをするときには、『どこまで分かったか』『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています。」90%以上	b							
				☆生徒が課題意識を持つことができるよう、目的を明確化して、計画的に行事や取組をさせた。今後新執行部を中心に一人一人がより課題意識を持つように取り組んでいく。	a				A	A	<p>○「生徒会の活動に、真剣に取り組みましたか、」という項目に対して、当てはまる「57.7%」、やや当てはまる「34.6%」という割合だった。活動が制限された中で実行錯誤しながらの取組であった。今後の状況が不透明ではあるが、今年度の取組を来年度にも生かしていきたい。</p>	
★生徒会活動で主体的に取り組んだことを書ける生徒を80%以上にする。	a											
☆いじめセクハラ体罰アンケートをもとに実態把握し取り組む。	a											
☆生活意識アンケート・ディリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し、面談とSCによるカウンセリングを実施する。	a											
★i-checkで、いじめのサイン・対人ストレスを標準スコア50以上にする。	a											
★「道徳科」では、「友達と話し合う等して自分の考えを深めたり、広げたりしている。」を90%以上にする。	a											
健やかな体 (体)	生活習慣の定着と体力の向上を図る。	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携による三点固定 (就寝時刻・起床時刻・家庭学習開始時刻)の取組 「ストップ9」の取組 	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。	a	A	B	<p>○1学期前半に体力づくり運動を行い、ウォーミングアップの体幹補強運動を継続して実施した。</p> <p>○生活リズムチェック2回目を実施し、起床時刻70.8%、就寝時刻68.8%、家庭学習開始時刻77.1%、ストップ9は70.8%達成しており、平均達成率は71.9%である。ストップ9やメディアの適切な利用について、生活の見直しを図るよう取り組んでいく。</p>				
				★三点固定の取組を行い、定着率を75%以上にする。	a							
	生活習慣の定着と体力の向上を図る。	基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくり計画による体育授業の実施・新体力テストの課題種目の再実施 部活動 (運動部)の充実 	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。	a	A	A	<p>○本年度、新体力テストは第2学年のみ県平均が公表されており、当該学年のみ比較を行った。男女合計で16種目中14種目 (87.5%)が県平均を越えている。平均を越えなかった種目には、体育科の授業最初に補強運動を継続的に行った。</p> <p>○「あなたは部活動に主体的に取り組んでいますか。」という項目に対して、当てはまる「63.5%」、やや当てはまる「28.8%」である。また、「あなたは部活動に満足しています。」という項目に対して、当てはまる「36.5%」、やや当てはまる「42.3%」である。アンケート結果として、1学期末より2学期末がさらに低下した。部活動の取組を見直すことが必要である。</p>				
				★新体力テストで、県平均以上の種目を70%以上にする。	a							
				★「学校生活に関するアンケート」において、「部活動に主体的に取り組んだ」を80%以上にする。	a							
				★「学校生活に関するアンケート」において、生徒の部活動満足度を80%以上にする。	a							
				☆働き方改革について研修の機会を持ち、業務改善が進んでいるか学期に1回振り返りを行い、改善を進めていく。	a				A	A	<p>○業務改善は、職場全体では、担当の細分化や分掌会等で見直しを持ちやすいよう主事主任が工夫している。また個人では職員それぞれが自分に合った改善を行い、昨年度の同時期に比べ超過時間の平均が5時間5.5分減になった。</p> <p>○不祥事防止研修は、計画通り実施した。</p> <p>○小中合同研修会は、コロナ禍で集合研修はできなかったが、オンライン研修に切り替え、実施した。小中一貫で計画していた行事についても、実施方法の変更や規模を縮小して実施した。</p> <p>○地域探究学習後の生徒アンケートは、「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価は98%だった。コロナ禍で現地交流等はできなかったが、国際交流協会の協力を得て、ZOOM交流を行うことができた。</p>	
				☆不祥事防止研修は、主任や主事、学年会で担当を決め、主体的な研修にする。	a							
☆小中一貫教育推進協議会を中心に小中合同研修会を開催する。	a											
★地域探究学習後の生徒アンケートで「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価を90%にする。												
信頼される学校	働き方改革を推進し、組織力を向上させ、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進 組織的な学校運営の強化 不祥事防止研修の充実 小中一貫教育の発展 地域力を生かしたカリキュラムの実施 	☆働き方改革について研修の機会を持ち、業務改善が進んでいるか学期に1回振り返りを行い、改善を進めていく。	a	A	A	<p>○業務改善は、職場全体では、担当の細分化や分掌会等で見直しを持ちやすいよう主事主任が工夫している。また個人では職員それぞれが自分に合った改善を行い、昨年度の同時期に比べ超過時間の平均が5時間5.5分減になった。</p> <p>○不祥事防止研修は、計画通り実施した。</p> <p>○小中合同研修会は、コロナ禍で集合研修はできなかったが、オンライン研修に切り替え、実施した。小中一貫で計画していた行事についても、実施方法の変更や規模を縮小して実施した。</p> <p>○地域探究学習後の生徒アンケートは、「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価は98%だった。コロナ禍で現地交流等はできなかったが、国際交流協会の協力を得て、ZOOM交流を行うことができた。</p>				
				☆不祥事防止研修は、主任や主事、学年会で担当を決め、主体的な研修にする。	a							
						指標評価・評価	a・A	b・B	c・C	d・D	e・E	
						基準	100%以上の達成度	80%以上100%未満の達成度	60%以上80%未満の達成度	40%以上60%未満の達成度	40%未満の達成度	
							十分に目標を達成できた	概ね目標を達成できた	ある程度目標を達成できた	あまり目標を達成できなかった	目標を達成できなかった	